

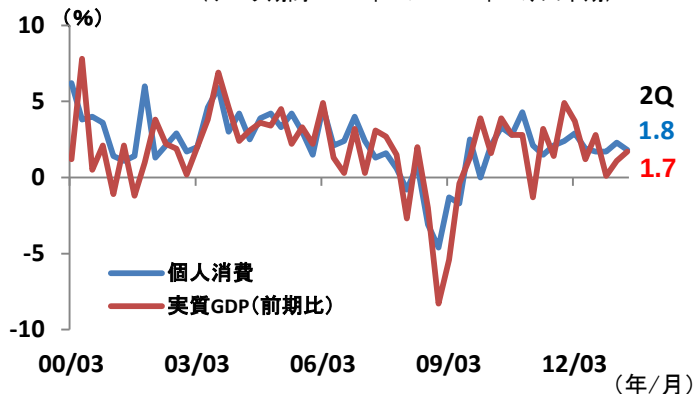
～直近の米国経済動向について～

ポイント

- ◆ 米国経済は緩やかながらも堅調に推移しています。2013年第2四半期の実質GDP成長率(速報値:前期比、年率)は+1.7%、7月のISM製造業景況指数は55.4と前月の50.9から上昇、また、ISM非製造業景況指数も56.0と前月の52.2から上昇しました。
- ◆ 7月の失業率は7.4%と前月の7.6%から改善、非農業部門雇用者数は前月比16.2万人増で、市場の事前予想18万人増をやや下回りました。また、6月の消費者物価指数上昇率(前年比)は+1.8%と落ち着いた水準にあります。非農業部門雇用者数が市場の事前予想を下回ったことから、米連邦準備制度理事会(FRB)による量的緩和縮小観測がやや後退しましたが、米国株式市場や経済にとってはマイナスの材料ではないと見ています。米国経済は、緩やかに回復の過程を辿っていると思われます。
- ◆ 2013年第2四半期の実質GDP成長率(速報値)は+1.7%(前期比、年率)となり、第1四半期の+1.1%から上昇しました。個人消費は+1.8%と第1四半期の+2.3%から減速しましたが、在庫の増加が寄与しました。(図表①)
- ◆ 7月のISM製造業景況指数は55.4と前月の50.9から上昇しました。またISM非製造業景況指数も56.0と、前月の52.2から上昇しました。両指数とも、生産と新規受注が大きな伸びを示しました。(図表②)
- ◆ 7月の失業率は7.4%と前月の7.6%から改善しました。非農業部門雇用者数は前月比16.2万人増となり、市場予想の18万人増を下回りました。同時に5月、6月の同雇用者数の増加が2.6万人下方修正されました。(図表③)
- ◆ 6月の消費者物価指数上昇率(前年比)は+1.8%、消費者物価コア指数上昇率(前年比)は+1.6%と落ち着いた水準にあります。(図表④)
- ◆ 7月31日の米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明文において、FRBは量的緩和縮小について、失業率と消費者物価の水準に着目していると述べました。米国経済は、落ち着いたインフレ率のもと、緩やかに回復の過程を辿っていると思われます。

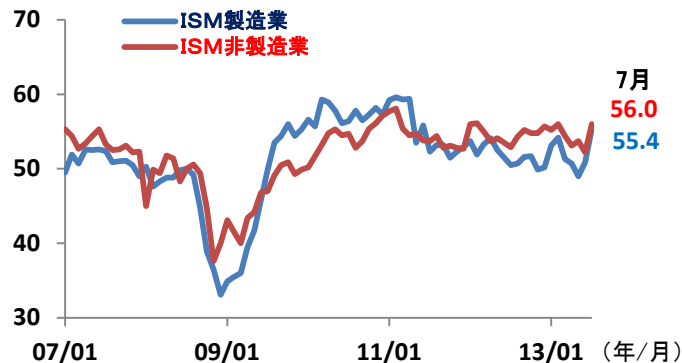
【図表①:米国実質GDP成長率の推移】

(データ期間:2000年1Q～2013年2Q、四半期)



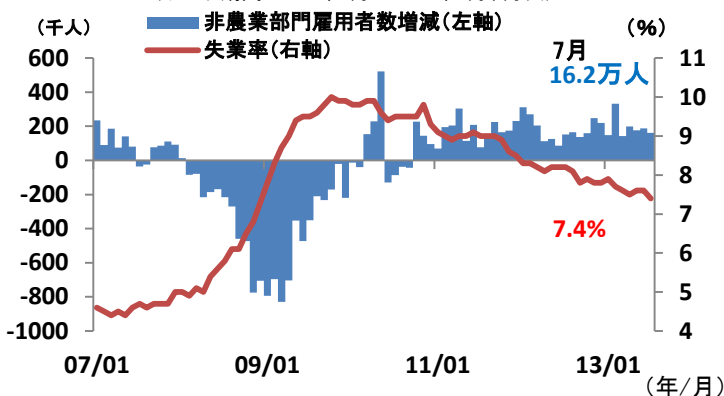
【図表②:米ISM製造業、非製造業景況指数の推移】

(ポイント) (データ期間:2007年1月～2013年7月、月次)



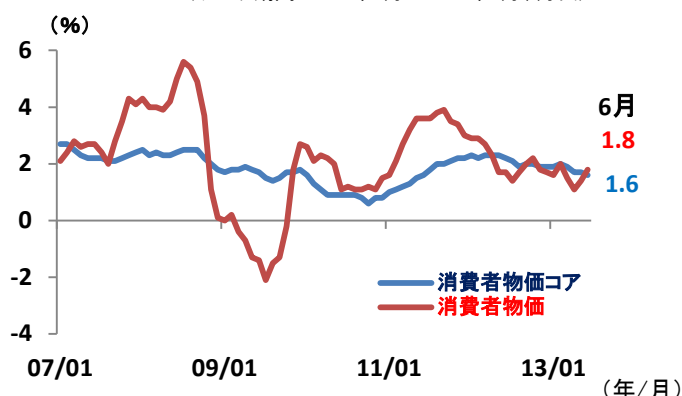
【図表③:米雇用統計の推移】

(データ期間:2007年1月～2013年7月、月次)



【図表④:米消費者物価、消費者物価コア指数の推移】

(データ期間:2007年1月～2013年6月、月次)



(出所:図表①～④はいずれもブルームバーグのデータよりニッセイアセットマネジメントが作成)

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

＜審査確認番号H25-TB38＞